

2021 年度 事業報告書



バングラデシュ カイラクリ・クリニックの元奨学生

目次

1. 今年度の歩み	1
2. 中期計画における位置づけ	3
3. 海外諸活動	3
[3-1] 海外派遣	3
(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）	3
(2) タンザニア 雨宮春子ワーカー（看護師・助産師）	4
(3) 短期派遣	6
[3-2] 奨学金事業	6
[3-3] 協働プロジェクト	13
(1) SALT（次世代のための健康と衛生）プロジェクト	13
(2) シロアムプロジェクト	13
(3) ママ・ナ・ムトプロジェクト	14
[3-4] 災害救援復興支援	15
4. 国内諸活動	17
[4-1] 国際保健人材育成	17
[4-2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動	19
[4-3] マーケティング	22
5. 運営体制	25
[5-1] 社員総会	25
[5-2] 理事会	26
[5-3] 委員会	26
[5-4] 事務局	28
6. 社員会員・サポート会員の現状報告	29
7. 2021年度の主な動き	30

1. 今年度の歩み

常務理事 大友宣

あなたがたはどう思うか。ある人が羊を百匹持っていて、その一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残して、迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか。よく言うておくが、もし、それを見つけたら、迷わずにいた九十九匹より、その一匹のことを喜ぶだろう。(マタイによる福音書 18 章 12-13 節)

2021 年度もなお世界中が新型コロナウイルス感染症に翻弄されています。この混乱の中で新しい光を見つけようともがき、傷つきながらも前に進んでいます。マタイはたった一匹の羊について記しています。SDGs(Sustainable Development Goals)の理念である「誰ひとり取り残さない」はこの聖書の言葉と、持続可能な開発の目標とを対比させるものです。イエスは現代社会の片隅に置かれた弱く小さくされた一人ひとりに声をかけ、手を置かれています。JOCS はそのイエスのはたらきの一部を担うものです。このコロナ禍において人と人とが分断された中で、弱く小さくされた一人ひとりに声をかけ、手を置くことは本当に難しいことでした。JOCS に関わる全ての人はたった一匹の羊のことを喜ぶことができるのではないかと思います。ワーカーやワーカーが働く現地の組織の方々、現奨学生や奨学生修了者、協働プロジェクトの方々、事務局職員たち、そして、現地で病気や貧困のただ中にあるの方々、JOCS 社員会員やサポート会員の皆さん、それぞれが一匹の羊の喜びを感じることができ、その思いを分かち合うことができます。「みんなで生きる」の中に掲載されるひとつひとつのものがたりも、一匹の羊の喜びに関連しています。

岩本直美ワーカーはバングラデシュの知的障がい者と共に生きる第7期の現地活動を2021年12月末で終えました。コロナ禍で脇に追いやられそうになるコアメンバーやその家族と共に生き、キリスト者としての生き方と喜びを伝えてくださいました。現地のアシスタントにリーダーシップを伝え、自らおこなってきたリーダーとしての役割を移譲することができました。雨宮春子ワーカーは今年度前半には日本での滞在を余儀なくされましたが、日本の介護クラスターなどで不安の中にある職員や入居者に寄り添いました。2021年7月からは1年4カ月ぶりにタンザニアでの活動を再開することができ現地の方々と共に生きています。

奨学生もコロナ禍で翻弄されています。予定のコースが開始されなかったり、入学が延期になったりしています。その中でも JOCS は現地で学び、現地のために働く奨学生のためにコロナ禍にあっても一人ひとりに対応してきました。2021 年度も事務局職員が現地を訪問しモニタリングをすることはできませんでしたが、奨学生たちが送ってくださる「ものがたり」は引き続き会員の大きな力になっています。

協働プロジェクトはケニアでは療育事業、タンザニアでは母子保健を継続しました。ケ

ニアの療育事業支援では短期専門家を現地に送ることはできませんでしたが、山内章子元
ワーカーがオンラインでリハビリテーションの指導をするなどの対応をおこないました。
タンザニアでは分娩監視装置を導入し、現地スタッフが装置を使えるように訓練を開始し
ています。両プロジェクトとも女性と子どもが活躍できる平和な社会を目指しています。
現地の団体と協働し、共に成長することができました。

JOCS ではワーカー派遣、協働プロジェクト、奨学金の3事業をおこなっていますが、
特にタンザニアでは3事業の連携を深めてきました。2020年度はコロナ禍のため3事業
の連携が停滞しましたが、2021年度後半に再度動き始めています。

スタディツアーは、今年度も実施は困難でした。ワーカーを発掘・育成するためにオン
ラインでの勉強会を定期的で開催し、以前よりも広範囲な地域から参加者を集めることが
できるようになりました。

2021年度も国内では、例年通りの活動はほとんどできませんでした。創立60周年に伴
い動画の作成も検討していましたが、海外渡航できないため計画は延期としました。

今年度は、「5カ年計画2018」の4年目でした。「取り残された一人ひとりを探し、苦悩
と喜びを皆で分かち合う」ことを目指して作成したこの計画を実現するよう一歩一歩進ん
できました。これからも、共に生きる私たちの活動を一層充実させていくよう、努力して
まいります。変わらぬご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。今年度も、
多くのボランティアの皆様がJOCSの活動を支えてくださいました。私たちの活動に共感
して様々な形でご支援をくださった方々に、深く感謝申し上げます。

2. 中期計画における位置づけ

2021年度は5カ年計画2018の4年目であった。中期計画後半ではあったが、2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため、多くの活動が中止や延期となった。特に、長引くボランティア活動の休止による使用済み切手運動への影響は大きかった。

海外諸活動においては、渡航ができず、予定を変更せざるを得ないことが多くあったが、一部オンラインによる活動の代替ができた。この状況の中で、奨学金事業には特に力を入れ、多数の新規の奨学生も採用された。奨学生たちはオンライン授業などにより学びを続けていたが、カリキュラムの遅延などが多く、予定どおりに修学ができないケースも多かった。

5カ年計画2018では、会員・寄付金を増やすことで、財務基盤を安定化させることも目指しており、会員減少を抑え、より多くの支援者を得ることを重要なこととしている。2021年度も多くの支援者が新たに加わり支援をしてくれた。新規の支援者を得るための活動の一部は、新型コロナウイルス感染防止のために実施できなかった。しかし、雑誌広告などを通してJOCSを知り、支援者となってもらえるケースも多かった。

3. 海外諸活動

ワーカーは2名、協働プロジェクトは2件、奨学金では70名を支援した。新型コロナウイルス感染防止のため、現地モニタリング、短期専門家派遣はしなかった。オンラインで代替できる部分はオンラインで実施した。災害救援復興支援は2020年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のための支援要請に積極的に応えた。

[3-1] 海外派遣

バングラデシュでは、岩本ワーカーがラルシュコミュニティのコミュニティリーダーの職責移譲を終え、帰国した。タンザニア派遣の雨宮ワーカーはコロナウイルス感染防止のため緊急一時帰国していたが、7月に再赴任して活動を再開した。

(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）

派遣先：L'Arche Mymensingh（ラルシュ・マイメンシン）

派遣期間：2019年12月～2021年12月

活動概要：知的障がいのある人々と共に生活し、コミュニティがバングラデシュの人々によって運営できるようになるための人材育成と組織づくり

以下のように、リーダーシップの移譲を実施した。

- 1) 国際ラルシュによる新しいコミュニティリーダー候補者の選出が難航したため、ラルシュ・マイメンシン内で2名のリーダー（ロトナ・コミュニティリーダー代理、ゴウトム・プログラムコーディネーター）を選出した。彼等がこの移行期のリーダーシップを担い、今後成長するための学びの機会とすることもねらいであった。
- 2) 各職責と仕事内容の詳細を見直し、ロトナとゴウトムおよびシニアアシスタントたちで職責を分担し、その実施と評価、そして必要な調整を図った。
- 3) ロトナとゴウトム、そして会計士シャゴールのチームワーク強化を意図し、毎朝の短い祈りとミーティングを習慣化した。また英語、パソコン技能習得等について特別養成プログラムを実施した。
- 4) 会計管理体制の万全を図るため、会計管理ソフト（タリー）をロトナのパソコンにもインストールし、会計管理の詳細についてもオリエンテーションをおこなった。
- 5) コロナ渦中におけるリーダーシップの移行について、障がいのあるメンバーたちへの影響を危惧したラルシュ理事会は、国際ラルシュとJOCS理事会へ岩本ワーカーのバン格拉デシュ滞在延長を要請した。これにより岩本ワーカーのバン格拉デシュ滞在は12月末まで延長され、障がいのあるメンバーたちが新型コロナウイルス感染症の予防接種を受けられるよう手筈を整え、彼等の感染防止に万全を期することができた。そしてロトナとゴウトムの職務習得環境が整えられた。
- 6) 9月より、国際ラルシュと理事会の合意のもと、ロトナとゴウトムによるリーダーシップ職務遂行を開始し、職責相応の手当の支給が給与に含まれるよう図った。
- 7) 10月以降は理事、アシスタントまた支援者や関係者等とのコミュニケーションについて、漸次ロトナとゴウトムに委ね、リーダーシップの移譲を内外に明確にした。同時にロトナとゴウトムのリーダーシップについて、シニアアシスタントたちからその実践について聴き取りをおこない、必要に応じフィードバックと調整を図った。
- 8) 11月に実施されたラルシュの総会について、その準備をセクレタリーの理事、ロトナ、ゴウトムと岩本で周到に準備した。理事、地域の代表者、障がいのあるメンバー、アシスタントの代表者等、そしてロトナとゴウトム等により、岩本ワーカー不在の中、総会は実に良好に実施された。皆が達成感と満足感そして自信を得る機会となった。
- 9) 12月17日、理事会会長の承認のもと、職務移譲レターをロトナ、ゴウトムそして会計士へ提示し承諾のサインを得た。
- 10) 日本帰国後、1カ月の準備期間を経て2022年2月から3月まで活動報告会を実施した。新型コロナウイルス感染防止ため、オンラインで実施した。

(2) タンザニア 雨宮春子ワーカー（看護師・助産師）

派遣先：TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所)

St. John Paul II Hospital（聖ヨハネ・パウロ2世病院）

派遣期間：2019年1月～2023年3月

活動概要：ママ・ナ・ムトプロジェクト（協働プロジェクト）の活動

TAHO が実施するセミナーとスーパービジョンの支援

1) タンザニアにおける新型コロナウイルス感染症の状況

タンザニア国内での新型コロナウイルス感染症予防接種は、ダルエスサラームではジョンソン・エンド・ジョンソン製に加えファイザー製のワクチンが輸入され接種可能。タボラ州では、ジョンソン・エンド・ジョンソン製が初めに接種可能となった。TAHO 傘下の保健医療施設では、9 月まではンダラ病院のみで接種が開始され、その後 10 月に、カリウア地区の聖ヨハネ・パウロ 2 世病院とカトリック教会で、政府による予防接種普及活動が実施され、希望者への予防接種が開始された。予防接種を躊躇し拒否していた医療職員も、自施設での接種が開始されたことを機に、接種率は増加傾向にある。2021 年 12 月には、タボラ州でもファイザー製のワクチンが輸入され接種可能となったが、2022 年 1 月時点ではタボラ州内のジョンソン・エンド・ジョンソン製は在庫がなくなり、一部の病院でファイザー製のみが接種可能な状況になっている。

タンザニア政府によるオミクロン株感染者について具体的な数は公表されていない。オミクロン株の発生、拡大は、充分予想できる状況である。また、ダルエスサラーム市内の医療機関においては、12 月下旬より新型コロナウイルス感染症による入院者が再び増えていることが確認されている。

2) 実績

① ママ・ナ・ムトプロジェクト

- ・TAHO 傘下にある、周産期を取り扱っている 8 つの保健医療施設のプロジェクトに関する基礎調査の分析結果を、各保健医療施設に報告し、課題の認識を図った。当初予定していた分析対象期間は 2018 年から 2019 年だったが、データが古くなったため、データ収集対象期間を延長して調査を実施し、結果報告した。
- ・母子保健関連の台帳と母子カードの正確な記載方法の勉強会を TAHO 傘下の各保健医療施設で実施する予定だったが、予定を変更し、セミナーで各施設の代表者を対象にした勉強会をおこなった。
- ・聖ヨハネ・パウロ 2 世病院については、状況把握のために、基礎調査終了後も継続してデータ収集と分析をおこなった。
- ・聖ヨハネ・パウロ 2 世病院での活動
 - 母子に対する健康教室、保健指導を実施継続した。
 - 医療従事者に対する、技術と知識の向上・標準化・定着のためのトレーニングに関し、マニュアルや掲示物、教材作成などを通しての体制作りを一部実施した。
 - 分娩監視装置（妊娠中と分娩中の母体子宮収縮と胎児心拍数を観察する機械）の導入にあたり、使用方法とモニター判読方法に関して、座学研修をおこなった。
 - 妊婦健診、産褥健診、新生児健診、分娩時の新生児処置を実施した。
 - 分娩介助、分娩時の入院からの流れ（情報収集と助産診断）、病棟での産褥ケアと新

生児ケア、産後の退院指導、新生児蘇生法講習と継続的なトレーニングに関しては、実施できなかった。

聖ヨハネ・パウロ2世病院で、活動状況と効果をみて、2022年2月頃よりほかの7つの保健医療施設での普及活動を開始予定であったが、日本一時帰国により予定を変更し、2022年度に実施することとした。

②TAHOでの活動

- ・TAHOが四半期に一度、傘下の保健医療施設を対象に実施しているスーパービジョン（巡回視察）に参加した。
- ・TAHOが年に一度開催するセミナーの準備や実施を支援した。

3) 特記事項

雨宮ワーカーは、札幌市の保健所の疫学調整班に登録し、新型コロナウイルスクラスター対策班に看護師として支援に入った。(2021年3月16日から5月31日まで)

(3) 短期派遣

バングラデシュのワーカー派遣要請の事前調査のため、3月末から岩本直美氏を短期ワーカーとして派遣した。

[3-2] 奨学金事業

2021年度はインドネシア、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、ケニア、タンザニア計7カ国の70人を支援した。新型コロナウイルス感染防止のため、モニタリングの実施は見合わせた。2022年度の新規募集に備えて協力団体の見直しと奨学金事業実施のガイドラインの改訂をおこなった。

(1) インドネシア

田村久弥元ワーカーや塚本香代美元ワーカー、長尾真理元ワーカーの派遣先であったGKST、GMIMおよびICAHS傘下にある保健医療施設で働く14名を支援した。

インドネシアでは、すべての病院が、その病院の規模・レベルに応じた病院の認証を取得することが義務づけられている。配置すべきスタッフの人数や資格の基準が細かく規定されており、順守できない場合は政府から認証を取得できない。そのため、近年は各保健医療施設より、認証取得の人材面における基準を満たすために専門医や上級看護師の資格取得を希望する申請が続いており、2021年度も専門医および上級看護師の資格取得の要請に応えた。

GKST シナルカシ病院は新病棟への移転を控え、基準を満たす人材の配置が求められているが、キリスト教系の私立病院は特に医師の雇用が難しく、当病院で将来にわたって働くことを希望する人材を医師や専門医として育成することが喫緊の課題である。

また、GMIM カローランアムラン病院より、院長の交代を機に3年ぶりに奨学金支援の申請があった。申請者のほとんどは病院認証取得のため、上級資格を目指すものであり、まずは小児科専門医資格を目指す医師の支援をした。

- * GKST (Gereja Kristen Sulawesi Tengah：中部スラウェシキリスト教会)
- * GMIM (Gereja Masehi Indjili Minahas：ミナハサ福音教会地域保健サービス部)
- * ICAHS (Indonesia Christian Association of Health Service：インドネシア・キリスト教保健サービス協会)

(2) カンボジア

カトリックプノンペン司教区の CCHS に所属する医師1名の病院管理学修士号の取得を引き続いて支援した。オンラインインタビューなどで近況を確認した。

- * CCHS (Catholic Community Health Services) カンボジアのカトリック教会の保健部門の活動をおこなう NGO

(3) ネパール

岩村昇元ワーカーをはじめ、これまで JOCS がワーカーを派遣したことのある HDCS、TLMN アナンドバン病院、UMNMDT とこれらの組織の傘下にある病院で働く保健医療従事者および職員12名を支援した。しかし2020年度から続く新型コロナウイルス感染症拡大を受けてネパール政府が発出する行動規制に伴い、2年間入学試験の延期が続き、未だに入学試験が実施されないコースもある。そのため、2019年度採用の1名、2020年度採用の3名、2021年度採用の5名は入学試験を受けられず、研修を開始できていない。

医療へのアクセスが難しい山間部にある保健医療施設では、地理的・経済的な理由から人材の雇用が難しく、地域出身のスタッフを育成する必要がある。またネパール政府は、病院規模に応じて看護の管理職には修士号の取得を必須条件としている。各病院の人材開発の要望に応え、看護師の修士号取得や准看護師または技師の助手として働くスタッフの正看護師または技師の資格取得を支援した。

- * HDCS (Human Development and Community Service) ネパールにあるキリスト教系 NGO
- * TLMN (The Leprosy Mission Nepal) ネパールにあるハンセン病患者のために活動するキリスト教系 NGO
- * UMNMDT (United Mission to Nepal Medical and Development Trust：ネパール合同ミッション) キリスト教系国際 NGO

(4) バングラデシュ

乾眞理子元ワーカー(医師)の派遣先であったカイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト(通

称カイラクリ・クリニック）で働く5名を支援した。カイラクリ・クリニックでは、創立者のベーカー医師から技術を学んだ村人らが医療サービスを担ってきた。ベーカー医師亡き後、医療技術の維持・向上に加え、団体存続のために有資格者が必要となっている。奨学生は、仕事を続けながら3年間で医療助手の資格取得を目指す。2021年度は、1名が資格を取得し、2名が新たに採用された。

(5) ウガンダ

2つの協力団体、UPMBとSRDを通じて11名を支援予定だったが、UPMB所属の1名は、2021年度に就学の継続が困難となり奨学金を辞退した。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う研修スケジュールの変更により、2021年度に研修を終えた奨学生はいなかった。2021年度はUPMB傘下でウガンダ北部にある病院から1名、SRDの僻地医療を担う病院から2名の奨学生を採用した。

* UPMB (Uganda Protestant Medical bureau) ウガンダ聖公会、セブンスデー・アドベンチスト、ペンテコステの3教派が連携し、302の医療施設を統括する全国規模のネットワーク組織

* SRD (South Rwenzori Diocese: ウガンダ聖公会南ルウェンゾリ教区)

(6) ケニア

協働プロジェクトの協力団体であるシロアムの園の理学療法士を支援した。週末のパートタイムコースで学び、2022年度に理学療法学士を取得する予定である。

(7) タンザニア

TAHO傘下にある保健医療施設で働く27名を支援した。

雨宮春子ワーカーの派遣先である聖ヨハネ・パウロ2世病院で、将来的に協働プロジェクトに関わることが期待できる職員の、医師や看護師の資格取得や、転職することなく長期的、継続的に働く可能性の高い神父やシスターを優先的に支援した。TAHO傘下の保健医療施設には、基本的な短期研修を受けただけで、公的資格を持たずに医療助手として働いている職員が多い。また、TAHO傘下の全保健医療施設のどの有資格職種においても、政府が定める職員数に足りていない。そのため各病院で優先度の高い職種である医師、正看護師・助産師、薬剤師の資格取得を目指す職員と聖ヨハネ・パウロ2世病院の病院経営に携わる職員の会計の専門資格取得を支援した。

* TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office: タボラ大司教区保健事務所)

2021 年度奨学生一覧

インドネシア（14 名）

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
データ管理、医療記録担当者	23	男	GKST Sinar Kasih Hospital	診療記録	2018 年 07 月 ～ 2021 年 12 月
看護師長	40	女	GKST Sinar Kasih Hospital	公衆衛生（修士）	2019 年 07 月 ～ 2021 年 12 月
看護師	40	女	ICAHS Estomihi Hospital	看護学	2019 年 09 月 ～ 2022 年 10 月
看護師	44	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2020 年 07 月 ～ 2022 年 06 月
看護師	42	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2020 年 07 月 ～ 2022 年 06 月
病院ボランティア	20	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020 年 08 月 ～ 2025 年 07 月
医療助手	25	女	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2020 年 07 月 ～ 2023 年 06 月
病院ボランティア	20	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020 年 08 月 ～ 2025 年 07 月
病院ボランティア	21	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020 年 08 月 ～ 2024 年 07 月
病院ボランティア	20	男	GKST Sinar Kasih Hospital	看護麻酔学	2020 年 08 月 ～ 2023 年 08 月
病院ボランティア	19	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020 年 08 月 ～ 2025 年 08 月
看護師・公衆衛生事業責任者	44	男	ICHAS Lende Moripa Christian Hospital	看護学	2020 年 09 月 ～ 2023 年 03 月
看護師	33	男	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2021 年 07 月 ～ 2022 年 06 月
医師	34	女	GMIM Kalooran Amurang Hospital	医学（小児科専門）	2022 年 02 月 ～ 2025 年 12 月

カンボジア（1 名）

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
医師	37	男	Catholic Community Health Services	病院管理学（修士）	2020 年 12 月 ～ 2022 年 12 月

ネパール（12 名）

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
理学療法士助手	34	女	TLMN Anandaban Hospital	理学療法学	2016 年 08 月 ～ 2021 年 10 月
看護師	27	男	UMN Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2018 年 08 月 ～ 2022 年 11 月
看護講師助手	34	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2018 年 10 月 ～ 2021 年 12 月
医師	36	女	United Mission Hospital Tansen	病理学	2019 年 06 月 ～ 2022 年 06 月

2021 年度奨学生一覧

准看護・助産師	33	女	HDCS Lamjung District Community Hospital	看護学	2019 年 09 月 ～ 2022 年 08 月
歯科助手兼准看護・助産師	26	女	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	歯学	2019 年 11 月 ～ 2022 年 10 月
看護師	24	女	UMN Okhaldhunga Community Hospital	看護学・看護教育	2020 年 12 月 ～ 2021 年 12 月
補助看護助産師	31	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2020 年 09 月 ～ 2022 年 09 月
看護師	27	女	TLMN Anandaban Hospital	看護学	2021 年 12 月 ～ 2024 年 12 月
看護師	25	女	UMN Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2021 年 12 月 ～ 2024 年 12 月
補助看護助産師	38	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2022 年 01 月 ～ 2023 年 12 月
検査技師助手	39	男	United Mission Hospital Tansen	臨床検査学	2022 年 01 月 ～ 2023 年 12 月

バングラデシュ (5 名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
医長代行	36	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2019 年 01 月 ～ 2021 年 12 月
モニタリング担当	43	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2020 年 01 月 ～ 2022 年 12 月
パラメディック	33	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2022 年 01 月 ～ 2024 年 12 月
パラメディック	33	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2022 年 01 月 ～ 2024 年 12 月
パラメディック	35	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2021 年 01 月 ～ 2023 年 12 月

ウガンダ (10 名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
准医師	42	男	SRD Kinyamaseke HCIII	公衆衛生	2018 年 08 月 ～ 2022 年 06 月
看護助手	36	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2019 年 12 月 ～ 2022 年 06 月
医師	29	男	UPMB Ruharo Mission Hospital	産婦人科学 (修士)	2020 年 08 月 ～ 2023 年 05 月
准看護師	32	男	UPMB Diocese of Northern Uganda	看護学	2021 年 03 月 ～ 2022 年 06 月
准看護師	33	男	SRD St. Paul's HC IV	麻酔学	2021 年 03 月 ～ 2022 年 12 月
准看護師	27	男	SRD Buhaghura HC III	医学	2021 年 03 月 ～ 2024 年 03 月
准助産師	27	女	SRD Kanamba HC III	助産学	2021 年 03 月 ～ 2022 年 07 月

2021 年度奨学生一覧

看護助手	38	女	UPMB Amai Community Hospital	看護学	2021 年 06 月 ～ 2023 年 12 月
超音波検査士	31	女	SRD Rwenswabe HC	超音波診断学	2021 年 08 月 ～ 2024 年 07 月
准看護師	32	女	SRD St. Paul's HC IV	医学	2022 年 01 月 ～ 2024 年 12 月

ケニア（1 名）

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
理学療法士	28	男	The Garden of Siloam	理学療法学	2018 年 09 月 ～ 2022 年 07 月

タンザニア（27 名）

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
医療助手	27	男	TAHO St.John Paul II Hospital	薬学	2017 年 09 月 ～ 2021 年 09 月
シスター、病院管理責任者	44	女	TAHO Ndala Hospital	病院管理学	2017 年 10 月 ～ 2022 年 10 月
シスター、医師補	38	女	TAHO Ndala Hospital	医学	2018 年 08 月 ～ 2023 年 08 月
医療助手	34	女	TAHO St.John Paul II Hospital	薬学	2018 年 09 月 ～ 2021 年 08 月
シスター、医師補	45	女	TAHO AMUCTA Dispensary	医学	2018 年 10 月 ～ 2023 年 10 月
医療助手	23	男	TAHO Mwanzugi Dispensary	医学	2019 年 09 月 ～ 2023 年 09 月
医師助手	21	男	TAHO Mwanzugi Dispensary	薬学	2019 年 09 月 ～ 2022 年 09 月
事務	35	女	TAHO Mwanzugi Dispensary	看護助産学	2019 年 10 月 ～ 2022 年 10 月
カルテ管理助手	28	男	TAHO St.John Paul II Hospital	データ管理	2019 年 10 月 ～ 2022 年 06 月
医療助手	26	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2019 年 10 月 ～ 2022 年 10 月
医療助手	25	男	TAHO St.John Paul II Hospital	看護学	2019 年 10 月 ～ 2022 年 10 月
司祭	36	男	TAHO Ndala Hospital	薬学	2020 年 11 月 ～ 2023 年 11 月
医療助手	24	女	TAHO Ndala Hospital	看護学	2020 年 11 月 ～ 2023 年 11 月
准看護師	29	男	TAHO St.Ann's Mission Hospital	看護学	2020 年 11 月 ～ 2021 年 11 月
准看護師	27	男	TAHO St.Ann's Mission Hospital	看護助産学	2020 年 11 月 ～ 2021 年 11 月
司祭	31	男	TAHO St.John Paul II Hospital	病院管理学	2020 年 11 月 ～ 2023 年 11 月
医師補	28	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2020 年 11 月 ～ 2025 年 11 月
医療助手	22	男	TAHO St.John Paul II Hospital	臨床工学	2020 年 11 月 ～ 2023 年 10 月
医療助手	31	女	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2020 年 11 月 ～ 2025 年 11 月

2021 年度奨学生一覧

医療助手	30	女	TAHO St.John Paul II Hospital	看護助産学	2020 年 11 月 ~ 2023 年 10 月
医療助手	19	女	TAHO Ndala Hospital	薬学	2021 年 10 月 ~ 2024 年 09 月
医療助手	20	男	TAHO Ndala Hospital	医学	2021 年 10 月 ~ 2024 年 09 月
医療助手	26	女	TAHO Ndala Hospital	医学	2021 年 10 月 ~ 2024 年 09 月
医療助手	29	女	TAHO St.Ann's Mission Hospital	看護助産学	2021 年 10 月 ~ 2024 年 09 月
司祭	34	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2021 年 10 月 ~ 2024 年 09 月
医師補	26	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2021 年 10 月 ~ 2026 年 09 月
会計	30	女	TAHO St.John Paul II Hospital	会計学	2021 年 11 月 ~ 2024 年 11 月

* 職業欄の職務・職種は奨学金申請時のもの

* 掲載は契約ベース。研修がまだ開始していないなどの理由で契約をまた締結していない奨学生は掲載していない。

[3 - 3] 協働プロジェクト

カンボジアの SALT プロジェクトの事後評価は、新型コロナウイルス感染防止のため渡航ができず実施しなかった。ケニアのシロアムプロジェクトの終了時評価は、同じく渡航できなかったが、オンラインで実施した。タンザニアのママ・ナ・ムトプロジェクトは雨宮春子ワーカーが、新型コロナウイルス感染防止のための緊急一時帰国を終えてタボラに再赴任し、活動計画を修正して再開した。

(1) SALT (Sokkapheap Anamai La-or sumrup samai Thmey : 次世代のための健康と衛生) プロジェクト

対象国 : カンボジア
活動地域 : バッタバン州
プロジェクト期間 : 2014 年 10 月 1 日 ~ 2019 年 9 月 30 日
協力団体 : バッタバン司教区ヘルスセンター
受益者 : バッタバン州内の 16 小学校および 8 中学校の高学年生
プロジェクト目標 : 小中学校への巡回指導による健康教育を通じて、子どもたちの健康促進を目指す

2019 年 9 月に終了した当プロジェクトは、プロジェクトで作成された教材を使い、カリキュラムに沿って健康教育と思春期教育を多数の学校で実施していた。そしてプロジェクト終了後もヘルスセンターの活動として継続的に実施される予定であった。その実施状況を確認し、今後の協働プロジェクトへ活かす目的で、事後評価を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため 2020 年度に続き、2021 年度の実施は延期することにした。

(2) シロアムプロジェクト

対象国 : ケニア
活動地域 : キアンブ地方行政区 (County) インデンデル地区
プロジェクト期間 : 2016 年 4 月 1 日 ~ 2022 年 3 月 31 日 (6 年間)
協力団体 : コイノニアミニストリー シロアムの園
受益者 : シロアムの園の療育事業に登録される、身体、知的、精神、認知力などの発達に障がい (重複障がいが多い) のある子どもおよびその家族
プロジェクト目標 : シロアムの園において、療育事業の基礎が確立される

進捗状況 :

2021 年度は、理学療法士の山内章子氏による、シロアムの園のスタッフへのオンライン指導を実施した。理学療法士のムハンジ氏が子どもたちにリハビリをおこなう様子を山内氏が確認し、リハビリ時の適切な姿勢や方法、子どもたちの状態をどのように評価したらよいか助言した。また教科書を用いた勉強会を、リハビリスタッフ全員を対象に毎週オンラインで開催した。

シロアムの園では、コロナ禍で縮小せざるを得なかった子どもたちの輪を少しずつ広げた。1クラスで実施していたこどもたちのグループ療法は、11月に2クラスに増やした。2年ぶりのクリスマス発表会も開催した。また、子どもたちの父親との「おやじ会」は2回開催され、父親たちが自分たちの経験を分かち合う機会となった。

シロアムの園は増加する子どもたちの必要に応えるため、施設の移転を予定している。

モニタリングおよび終了時評価は、オンラインで実施した。2022年3月31日までの予定であったプロジェクト期間を1年延長し、2023年3月31日までとした。

(3) ママ・ナ・ムトプロジェクト

対象国 : タンザニア

活動地域 : タボラ州タボラ大司教区

プロジェクト期間 : 2018年4月～2023年3月（5年間）

協力団体 : TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)

受益者 : TAHO とその傘下の 10 の保健医療施設（病院や診療所など）

プロジェクト目標 : TAHO 傘下の保健医療施設において、母と子が適切な出生前、分娩時、出生後および新生児ケアを受けることができる。

新型コロナウイルス感染症拡大により、2020年4月に一時帰国していた雨宮春子ワーカーは2021年7月に活動地のタンザニア・タボラ州に再赴任し、派遣先の聖ヨハネ・パウロ2世病院で活動を再開した。約1年4カ月の間任地を離れていたため、基礎調査を実施した2018～2019年からの変化を把握することから着手した。8月に実施された巡回指導の機会を利用して、妊娠期および産褥期の調査項目に絞ってデータ収集、分析をおこない、TAHO傘下の保健医療施設に報告する資料を作成した。調査結果と課題は、10月に実施されたTAHO主催のセミナーで報告した。

質の高い出産前および出産後の保健サービスの提供を目的として実施されたセミナーには、各施設の母子保健サービスに従事する保健医療従事者計24名が参加した。セミナーのプログラムには、プロジェクト活動の一つ「台帳・母子カードの正しい記載方法の習得」が含まれ、新しくなった台帳と母子カードの中でも、特に児のカードの紹介とその正しい記載方法、それに基づいた指導方法の講義がおこなわれた。セミナーの最後に実施されたワークショップでは、施設ごとに活動目標を設定して、保健指導や健康教室の実施方法などそれぞれのアクションプランを作成した。翌11月に実施された巡回指導では、アクションプランを貼りだし、週単位で健康教室のスケジュールを掲示、実施するなど工夫している施設も見られ、セミナーの成果が確認できた。

聖ヨハネ・パウロ2世病院では、主に次の4つの活動を実施した。

① 母子に対する健康教室、保健指導

セミナーで策定した周産期と小児ケアの外来部門で実施するアクションプランに従って、曜日ごとの健康教育（栄養、母乳育児など）を策定、継続的に実施した。

②台帳・母子カードの記載方法習得のオンサイトトレーニング（個別開催研修）

記載方法は、オンサイトトレーニングで継続的に実施した。

③分娩監視装置の導入と集団研修（座学）

12月より保健医療スタッフ52名に対して、装置の使用方法和モニター判読方法などを学ぶ全6回の座学研修を実施した。研修の最後に演習と試験で、研修参加者の知識の定着と理解度を確認した。2022年3月に装置を導入、座学研修を継続して実施した。

④母子保健スタッフの助産知識と技術の向上

雨宮ワーカーが妊婦健診、産褥健診、新生児健診および新生児の処置について、オンザジョブトレーニング（実地研修）の形で継続して実施した。

2021年度は4回のスーパービジョン（巡回指導）を以下のテーマで実施した。

4月：保健医療従事者の能力強化

8月：保健医療サービスおよび新型コロナウイルス感染対策実施状況の調査

11月：周産期、母子ケアおよびCovid-19保健サービスの質を向上

2022年1月：新生児ケアと母子保健サービスの質向上

なお、8月のスーパービジョンでヌゼガ地区にある修道院が運営するローザミスティカ診療所を調査し、正式にTAHO傘下の施設となり、プロジェクトでは合計10の施設を支援することになった。

[3-4] 災害救援復興支援

2021年度は、新型コロナウイルス感染防止と感染者治療のための支援要請に応じて、インドネシア、ネパール、タンザニアの3カ国に対して災害救援復興支援をおこなった。また、ミャンマーのクーデターによる避難民への支援のため、タイの協力団体の支援要請にも応えた。

(1) インドネシア

新型コロナウイルスのオミクロン株蔓延により、感染患者を受け入れていたGKSTシナルカシ病院では病院スタッフが感染した。医療提供体制を維持するため、3月に緊急の資金支援要請があり、13,700,000インドネシアルピア（約11万円）を支援した。病院は治療に必要な医薬品、ビタミン剤、栄養補給剤等を購入、早急な病院スタッフの隔離措置と治療によって、他の病院スタッフへの感染拡大は抑えられた。

* GKST（Gereja Kristen Sulawesi Tengah：中部スラウェシキリスト教会）

(2) ネパール

1) TLMN アナンダバン病院

6月にTLMNアナンダバン病院からの新型コロナウイルス感染症第二波に対する支援

活動への緊急支援要請を受け、理事会での協議を経て、352 万ネパールルピー（約 338 万円）を支援した。主に感染患者治療物資（酸素濃縮器、酸素、PCR 検査キット）、医療スタッフ用の個人防護具、隔離病棟の病床追加のためのベッド購入と医療活動の運営に充てられた。

2) UMN タンセン病院

6 月に UMNMDT 傘下のタンセン病院より新型コロナウイルス感染症第二波に対する支援要請を受け、理事会での協議を経て、21,081 米ドル（約 236 万円）を支援した。UMN タンセン病院は発熱外来と隔離病棟における新型コロナウイルス感染患者の医療活動と抗原検査キット購入に充てた。

3) オカルドウンガコミュニティ病院

6 月に UMNMDT 傘下のオカルドウンガコミュニティ病院より新型コロナウイルス感染症第二波に対する緊急支援要請を受け、理事会での協議を経て、19,900 米ドル（約 223 万円）を支援した。抗原検査キットと人工呼吸器（BiPAP）を購入し、隔離病棟を拡大、高度治療室を設置して、酸素吸入を要する患者の治療に使用した。

* TLMN（The Leprosy Mission Nepal）ネパールにあるハンセン病患者のために活動するキリスト教系 NGO

* UMNMDT（United Mission to Nepal Medical and Development Trust：ネパール合同ミッション）キリスト教系国際 NGO

(3) タンザニア

4 月にタンザニア・TAHO からの新型コロナウイルス感染患者治療のための医療機器購入にかかる資金の緊急支援要請に応え、25,774,339 タンザニアシリング（約 123 万円）を支援した。TAHO は 7 月に酸素濃縮器の購入、傘下 4 施設（聖ヨハネ・パウロ 2 世病院、聖アンナ病院、ンダラ病院、ウソングヘルスセンター）に各 2 台導入した。同時に TAHO 傘下保健医療施設の医療機器アドバイザーである臨床工学士を講師に招き、各病院で酸素濃縮器の使用方法を学んだ。

タボラ州には酸素濃縮器のある病院に限られ、これまでは多くの患者がムワンザカダルエスサラームに搬送されていた。

* TAHO（Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所）

(4) ミャンマー避難民（タイ）

JOCS のスタディツアー実施の協力団体であるタイの NPO 団体 WTIND から、同団体の活動地であるタイ・ミャンマー国境地帯に、ミャンマークーデターの影響を受け避難しているカレン族に対する緊急支援要請を受けた。JOCS では、理事会の協議を経て、4 月

に3,000米ドル（約33万円）、6月に5,000米ドル（約55万円）、9月に2,500米ドル（約28万円）を支援した。新型コロナウイルス感染症と政治問題を理由にタイ政府がミャンマーからの難民の入国を阻止している上に、NGOの現地へのアクセスを制限しており、カレン族の避難民は国際社会からの支援を受けることが難しい。WTINDの医師が中心となり、地域ボランティアと共に、特に食料不足による栄養失調状態にある乳幼児やその母親、妊娠中の女性、高齢者に対する治療活動を実施している。支援金は主に医薬品、食糧品、ビタミン剤の購入に充てられた。

* WTIND (Where There Is No Doctor) タイ北部のミャンマーとの国境に近い山岳地域にある、医師のいない村で社会活動をおこなうNPO団体

4. 国内諸活動

これまで対面で実施していた国内での諸活動の多くは、休止もしくはオンラインでの実施となった。

新規ワーカーの発掘育成を目的とする活動のうち、保健医療勉強会についてはオンラインで実施した。諸々の広報、マーケティング活動については対面での実施が難しく、キリスト教書店での広報、雑誌広報などに注力した。

新型コロナウイルス感染防止のためにJOCS主催のイベントは引き続き中止した。また、ボランティア活動が休止となり、使用済み切手運動をはじめ、多くの国内諸活動が活動を大幅に縮小した。

[4-1] 国際保健人材育成

将来国際保健医療協力の分野で活動を目指す保健医療系の学生や、現職の保健医療従事者向けに、国際保健医療勉強会5回をオンラインで実施した。

(1) 国際保健医療勉強会

JOCSのワーカー志願者を念頭に、将来的に国際保健医療協力の分野に携わることを希望する人に学びの機会を提供するため、2021年度は計5回の勉強会を開催した。うち4回は「小さくされた人々の感染症」をテーマとし、感染症の脅威の中で、アジアやアフリカの人々と共に生きるJOCSの活動を紹介した。新型コロナウイルス感染防止のため、また遠方参加も可能となるオンラインにて開催した。勉強会終了後は、ワーカー志望者に対して森田隆事務局長が派遣希望者説明会もおこなった。

第1回 小さくされた人々の生活と感染症との関わり：タンザニア・タボラでの医療活動で見たこと

日 時：2021年5月28日（金）19：00～20：40（20：40～21：10 派遣希望者相談会）
参加者：16名（女性12名、男性4名） ＊うち会員2名

【内訳】医師1、看護師3、保健師2、臨床検査技師1、大学講師1、団体職員1、
医療機関勤務1、公務員1、会社員1、学生2、回答無2

講 師：弓野綾氏（JOCS タンザニア派遣ワーカー、2015年～2018年）

内 容：マラリア、肺炎、下痢症、HIV/AIDSを例に、タンザニア・タボラにおける小
さくされた人々の生活と感染症との関わりを説明した。またタンザニアの新型コロナ
ウイルス感染症状況について概要を共有した。参加者は感染症に関する専門知識
とともに、医療資源が限られた中での支援の姿勢について、多くの示唆を得た様子
がうかがわれた。

第2回 結核対策を通じたコミュニティエンパワメントーバングラデシュと共に40年ー

日 時：2021年7月30日（金）19：00～20：40（20：40～21：10 派遣希望者相談会）
参加者：26名（女性21名、男性5名） ＊うち会員4名

【内訳】医師2名、看護師2名、助産師2名、保健師2名、薬剤師1名、
管理栄養士1名、作業療法士1名、団体職員6名、大学教員1名、学生8名

講 師：石川信克氏（JOCS バングラデシュ派遣ワーカー、1978年～1986年）

内 容：石川氏がバングラデシュにて取り組んだ、地域参加型結核対策の仕組みと成果に
ついて紹介した。地域参加型結核対策では、結核の治療成功率改善だけに留まらず、
保健ボランティアの女性の地位が向上され、地域社会全体への影響があった。勉強
会は、地域住民による健康づくりとエンパワメントについて理解を深める機会と
なった。

第3回 JOCSと私 ハンセン病患者に仕えて：

世界と日本の現状、バングラデシュ・ミャンマーと日本の経験から

日 時：2021年10月1日（金）19：00～20：45（20：45～21：30 派遣希望者相談会）
参加者：18名（女性14名、男性4名） ＊うち会員4名

【内訳】医師2名、看護師4名、助産師1名、保健師1名、薬剤師1名、作業療法
士1名、団体職員4名、教員（牧師）1名、学生2名、回答無1名

講 師：畑野研太郎氏（JOCS 会長、JOCS バングラデシュ派遣ワーカー、1985年～1994年）

内 容：JOCSから派遣されたチャンドラゴーナ病院にて、院内での働きに加え、早期発見・
治療のための家族健診、偏見や差別解消のための啓発活動をおこなったことを紹介
した。また、ミャンマーでJICA 専門家として従事した経験から、政府と NGO で
の仕事の違いを明示した。参加者アンケートでは、畑野氏の経験をもっと話を聞き
たいとの要望が寄せられた。

第4回 国際協力とプロジェクトマネジメント

日 時：2021年11月26日（土）19：00～20：30（20：30～21：00 派遣希望者相談会）

参加者：17名（女性15名、男性2名） ＊うち会員5名

【内訳】 看護師6名、作業療法士2名、助産師、1名、薬剤師2名、栄養士2名、
団体職員2名、学生2名

講 師：森田隆（JOCS 事務局長）

内 容：JOCSの基本方針と事業概要を紹介した上で、外部者として開発に携わるにあたり
念頭に置くべき、開発ステージ（タイミング）と介入内容の相関性、技術移転と
サービスデリバリーの違い、プロジェクトの概念とマネジメント手法・運営上の留
意点などを説明した。事例を交えたプロジェクトマネジメントの紹介に参加者の満
足度は高かった。

第5回 JOCSと私

日 時：2021年12月17日（金）18:30～19:40（19:40～20:00 派遣希望者相談会）

参加者：14名（女性11名、男性3名） ＊うち会員6名

【内訳】 医師2名、看護師3名、薬剤師1名、理学療法士・作業療法士1名、教員1名、
学生3名、会社員3名

講 師：畑野研太郎氏（JOCS 会長、JOCS バングラデシュ派遣ワーカー、1985～1994）

内 容：第3回に実施した畑野氏による「JOCSと私 ハンセン病患者に仕えて：世界と
日本の現状、バングラデシュ・ミャンマーと日本の経験から」のアンケートでの要
望に応じ、特別回として追加で実施した。畑野氏がJOCSのワーカーになるまでの
歩みを説明した上で、チャンドラゴーナ病院でハンセン病患者に仕えた経験を紹介
した。質疑応答では、日本とバングラデシュのハンセン病問題に対する違いや、ハ
ンセン病への差別に関する質問などが寄せられた。

[4-2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動

使用済み切手運動や講師派遣、事務局訪問受け入れを通して、世界の困難な環境におか
れた人々の状況の周知をし、国際協力活動に関する支援及び協働を育む機会を作る予定で
あったが、新型コロナウイルス感染防止のため、対面での活動は基本的には実施せず、中
止もしくはオンラインでの実施となった。

(1) 使用済み切手運動

新型コロナウイルス感染防止のため、切手等整理のためのボランティア活動を休止した。
それに伴い、使用済み切手収集、書き損じハガキ、外国コインの収集も休止とした。

1) 各地のスタンプショウへの参加

スタンプショウヒロシマ2021（広島県立産業会館において9月に開催）に参加を予定
していたが、JOCSは、新型コロナウイルス感染防止のため参加を見送った。

2) 書き損じハガキキャンペーンの実施

切手等整理のためのボランティア活動を休止したため、書き損じハガキキャンペーンを実施しなかった。

(2) 地区 JOCS 活動協力

各地区 JOCS は、新型コロナウイルス感染防止のために活動休止が多く、JOCS による活動協力も限定的となった。そのような状況にあっても、各地区 JOCS では感染状況が小康状態の時に使用済み切手の整理収集活動などがおこなわれた。また、パネル展示や市民クリスマス会での JOCS の活動紹介、コンサート開催によるファンドレイズなどがおこなわれた。地区 JOCS 全体オンラインミーティングを開催した（27 ページ参照）。

(3) 関西 JOCS バザー

ボランティア主催の「関西 JOCS バザー」は開催されなかった。

(4) 講師派遣プログラム

JOCS の活動や使用済み切手運動の紹介のため、依頼に応じて事務局内外から講師を派遣している。問い合わせのあった以下の諸団体（13 団体）に、感染対策を確認した上で、講師を派遣した。また、2 団体に活動紹介資料を送付した。

派遣時期	派遣場所
5 月	大阪保育福祉専門学校 女子学院中学校・高等学校 ヴォーリズ学園近江兄弟社中学校
7 月	大阪府立堺東高等学校 ヴォーリズ学園近江兄弟社高等学校
10 月	関西学院大学 加古川市福祉協議会登録ボランティアグループ
11 月	関西学院大学 恵泉女学園中学・高等学校 戸山教会付属戸山幼稚園
12 月	同仁美登里幼稚園
2022 年 1 月	成増高等看護学校（3 回）
2 月	マロニエ医療福祉専門学校（3 回） 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 社会委員会
活動紹介資料送付	土浦めぐみ教会付属マナ愛児園 松山学院高等学校

(5) 事務局訪問受入

通常は、JOCS の活動内容や使用済み切手運動について学ぶ機会を提供するため、中学

生・高校生のグループをはじめとする事務局訪問の受け入れをおこなっているが、2021年度は新型コロナウイルス感染防止のため、1団体からの電話訪問のみ受け入れた。

9月：恵泉女学院中学・高等学校

(6) 視聴覚資料

希望者に、DVDの貸し出しをおこなった。2021年度は幼稚園から1件の貸し出し依頼があり、上映して啓発活動に用いられた。

【資料内容】

- ・現地写真パネルセット

- ・活動紹介DVD

「JOCS活動紹介（2019.5版）」

「アサンテ サーナ（Asante Sana） タンザニアにまかれた種」

創立50周年記念「カシ ナマ ジュパン」「心をひらいて」2枚1セット

「エイズと向き合う」

「使用済み切手でアジアに医療協力を」改訂版

「クメールの人々と共に－カンボジアの農村から－」

「日本のお友達へ」

「アジアの呼び声に答えて」

「オカルドゥンガ診療所にて」

「はるかなるネパールの村へ」

(7) 国際協力イベント参加

1) グローバルフェスタ JAPAN2021

日時：2021年10月9日（土）、10日（日）

全体来場者および視聴数：10,357人（主催者発表）

新型コロナウイルス感染防止のため、東京国際フォーラムでのリアル会場と特設ウェブサイトでのオンライン会場のハイブリット開催となった。JOCSは、特設ウェブサイトにて団体ホームページのリンクを掲載するオンラインブース出展をおこなった。

2) ワン・ワールド・フェスティバル

新型コロナウイルス感染防止のためオンラインで開催されたが、JOCSは参加を見送った。

(8) ネットワーク活動

現在、「国際協力NGOセンター（JANIC）」「関西NGO協議会」「カンボジア市民フォーラム」「障害分野NGO連絡会（JANNET）」に加入している。JANICでは、2つのワーキンググループ「公益法人に関するNGO連絡会」「組織マネジメント」に参加しているが、

2021 年度は新型コロナウイルス感染防止のため、オンライン会議にて情報および経験の共有をした。「組織マネジメント」では、2021 年度から事務局スタッフが幹事を務めることとなった。カンボジア市民フォーラムでは、森田隆事務局長が 2019 年度から共同代表を務めている。JANNET では、2020 年度までと同様に事務局スタッフが監事として運営に携わった。

「NGO 非戦ネット」（非戦の平和、共生を目指す NGO の緩やかなネットワーク）と『新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！』連絡会』の活動に賛同して呼びかけ人を務めた。

(9) 創立 60 周年記念事業

記念事業として、啓発のための絵本を作成した。会報誌『みんなで生きる』子ども号として発行した。「仲良し 2 人組のみんなちゃんとなっちゃんがイキル博士とともにタイムマシンや超高速飛行機で旅をし、JOCS の活動を知って世界の困っている人に目を向けていく」という内容であった。会長挨拶と共に、タンザニアの奨学生、雨宮春子ワーカーの挨拶を掲載した。また、1 冊 50 円で販売したところ個人や教会、幼稚園などから約 2,900 冊の注文を受けた。

タイトル：クリスマスのプレゼントをさがして

発行部数：8,000 部

体裁：B5 版 32 ページ

送付先：会員と年額 1 万円以上の寄付者、希望者



[4-3] マーケティング

会報誌『みんなで生きる』の子ども号は、60 周年記念号として子ども向けの絵本を発行した。キリスト教書店での広報活動、奨学生やワーカーの最近のエピソードを紹介するよう工夫した雑誌広告など、支援者増強の実績がある活動を引き続き実施した。書店店頭での対面による広報活動や教会訪問は新型コロナウイルス感染防止のため実施できなかった。

(1) 会報誌『みんなで生きる』

発行回数：年 7 回（偶数月 10 日、11 月 10 日発行）

発行部数：通常号：6,000 部

6・7 月号（簡易版）：12,000 部

子ども号（60 周年記念号）：8,000 部

体裁：A 4 判。4 ページ（6・7 月号）、8 ページ（8・9 月号、10・11 月号、2・3 月号）、12 ページ（12・1 月号）、16 ページ（4・5 月号）。子ども号は B5 判、32 ページ。

送付先：会員と年額 1 万円以上の寄付者等。ただし 6・7 月号は年次報告書とともに全支援者に送付した。

特集記事：4・5 月号 JOCS 奨学金事業報告

6・7月号（簡易版のため特集記事はなし）

8・9月号 JOCS 奨学生（カンボジア）からのご報告

10・11月号 タンザニア活動報告

12・1月号 JOCS につながる人たちからのクリスマスメッセージ

2・3月号 ケニア協働プロジェクト報告

その他、会長による巻頭言、ワーカーからの手紙、奨学金事業の報告、地区 JOCS からの報告、新入会者報告、国内活動の案内や報告を掲載した。

子ども号は、60 周年記念号として、JOCS の働きを紹介する「クリスマスのプレゼントをさがして」というタイトルの絵本を作成した。

評価活動：毎号、都道府県順に 100 人の会員を抽出し、往復はがきでアンケートを送付した。毎回 30 通前後の回答を得た。得た回答は誌面づくりに役立てた。また随時会員の声として誌面で紹介した。

編集・校正ボランティア：編集にあたっては、以下のボランティアメンバーに協力をいただいた。柏木牧子氏（イラスト）、岸川瞳氏、古中大輔氏、那須野幸子氏、新井ななえ氏、平本実氏、山崎理恵氏



(2) 年次報告書

2020 年度（2020 年 4 月～2021 年 3 月）の海外事業、国内活動、会計報告等をまとめた年次報告書を発行した。JOCS の活動内容と成果をわかりやすく伝えることを目的とし、ワーカーと共に活動する人々や奨学生、協働プロジェクトに関わる現地の人々を紹介した。また、新型コロナウイルス感染症に影響を受けた人々への災害救援復興支援活動を報告した。そのほか、国内での活動の報告や支援者の声も掲載した。

例年通り、会報誌 6・7 月号と夏期募金趣意書を同封し発送した。



発行回数：年 1 回（6 月 10 日発行）

発行部数：12,000 部。発送数は約 10,000 部

体裁：A 4 版。20 ページ

送付先：全支援者

評価：同封したアンケートのうち 212 通が返信された（回答率 2.2%）。印象に残った記事として「ワーカー派遣」「奨学金事業」が多く挙げられた。

(3) プレスリリース

株式会社 PR TIMES の社会貢献活動である、プレスリリース配信サービスの無償提供プロジェクトを活用したプレスリリースを以下のようにおこなった。

「岩本直美ワーカー帰国活動報告会開催」リリース日：2022 年 1 月 20 日

(4) 雑誌広告

キリスト教雑誌『百万人の福音』『信徒の友』の 7 月号（6 月発売）と 1 月号（12 月発売）に 1 ページ広告を掲載した。7 月号ではネパールの JOCS 奨学生の働きについて、1 月号ではタンザニアの雨宮春子ワーカーの活動報告を掲載した。

『婦人之友』誌 1 月号（12 月発売）に資料請求ハガキを付けた 1 ページ広告を掲載した。広告本文ではバングラデシュの奨学生を紹介した。この広告を見て 2 名が入会した。

(5) キリスト教書店での広報活動

いのちのことは社直営のキリスト教書店で、以下のような広報活動をおこなった。

- ・ デジタルサイネージ（電子看板）の掲示（東京）。
- ・ 書籍購入者全員へのチラシ配布（東京・大阪・通販）。チラシ約 1 万 8 千枚を配布した。61 名から資料請求があり、そのうち 30 名が入会した。

計画していた東京店店頭での活動紹介イベントは、新型コロナウイルス感染防止のため実施を見送った。

(6) 教会訪問

理事や希望する会員に対して活動報告会の講習を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないため、実施を見送った。

(7) 募金

2021 年度の募金協力件数は以下のとおりである。

2021 年度	依頼数	協力件数	協力率	寄付金総額
夏期募金	9,794 件	2,038 件	20.8%	21,086,863 円
冬期募金	9,671 件	4,272 件	44.2%	51,645,427 円
その他の募金	—	—	—	7,122,566 円
国別指定	—	—	—	166,375 円
奨学金指定	—	—	—	10,576,744 円
災害救援復興指定	—	—	—	12,000 円
総計	—	—	—	90,609,975 円

夏期募金は、例年どおり、6 月発送の年次報告書と「みんなで生きる」6・7 月号に募金

趣意書と払込用紙を同封した。冬期募金では、タンザニアの雨宮ワーカーの活動を紹介する趣意書を発送した。

夏期・冬期募金の趣意書に会員募集の旨を載せたところ、夏期募金で15名、冬期募金で12名が寄付者から会員へ移行した。例年新規切手寄付者に送付している冬期募金の趣意書は、2021年度使用済み切手運動休止のため送付しなかった。一般寄付のほか、奨学金指定、国別指定の寄付が集まった。



(8) 遺贈

2020年度に続いて、高齢層の読者が多い雑誌『明日の友』に、資料請求ハガキ付きの3ページ広告を掲載した。『明日の友』読者7名から資料請求があった。夏期・冬期募金趣意書で遺贈パンフレットを案内したところ、電話や年次報告書アンケートによるパンフレット請求が13名からあった。信託銀行から、顧客の依頼により遺言書を作成しているとの表明が1件あった。また、遺言書作成のための専門家紹介の要望にも応えた。

相続財産の寄付に関するパンフレットを新たに作成し、問い合わせのあった方に送付した。

(9) 物語データベースの作成

過去の会報『みんなで生きる』に掲載された物語と写真を物語データベースに登録した。リモートワーク実施により写真の登録に時間がかかったため、データベースの運用に関する検討は2022年度に実施することとした。

5. 運営体制

2021年度も新型コロナウイルス感染防止のため、6月実施の社員総会は書面表決とした。理事会はオンラインで実施され、活発に協議した。また、理事会の諮問を受けた3つの委員会が、専門的見地から理事会へ答申をおこなった。

[5-1] 社員総会

2021年6月12日（土）14時から、東京都新宿区の日本キリスト教会館5階にある日本キリスト教海外医療協力会 東京事務局会議室にて、第60回定時社員総会を開催した。今回は、新型コロナウイルス感染防止のため、書面での出席を呼びかけた。社員総数300名のうち、委任状179名、書面による議決権行使書の提出57名、計236名を以って、成立した。総会では、まず、2020年度事業報告がおこなわれ、議事である2020年度決算報告、寄付金取扱規程改定が承認、決議された。議案審議の終了後には、2021年度事業計画、

2021 年度収支予算について説明がなされた。

[5 - 2] 理事会

定例理事会、電子メールによる臨時理事会（決議の省略）を、以下の日程で開催した。
定例理事会は新型コロナウイルス感染防止のため、オンライン会議とした。

2021 年 4 月 24 日	オンライン会議
5 月 20 日	電子メールによる臨時理事会（決議の省略）
6 月 12 日 定時社員総会前	オンライン会議
7 月 31 日	オンライン会議
9 月 11 日	オンライン会議
11 月 13 日	オンライン会議
2022 年 1 月 22 日	オンライン会議
3 月 19 日	オンライン会議

2021 年度の理事ならびに監事は次のとおり。

理事：畑野研太郎（会長）、大友宣（常務理事）、植松功、小宅泰郎、
川北かおり（～ 2021 年 12 月 2 日）、久保礼子、名取智子、本田まり、森田隆、
柳澤理子
監事：榛木恵子、渡部芳彦

[5 - 3] 委員会

(1) 財務委員会

委員長：大友宣 副委員長：羽山信輝

委員：飯田多香子（事務局）、小池宏美（事務局）

新型コロナウイルス感染防止のため、協議はメールまたはオンラインでおこなった。また、例年と同じように、委員長、副委員長は毎月事務局から財務状況の報告を受け、財務運営が適正におこなわれていることを確認した。

2021 年度も新型コロナウイルス感染症拡大により、事業計画を大幅に変更せざるを得なかった。収益見込みと費用の変更に対応するため、予算の補正を 2021 年 6 月（メール協議にて）と 10 月（オンラインにて）に協議し、会長および常務理事に提出した。

2021 年度（前年度）の予算作成は従来の 2 回協議のプロセスを変更して 1 回でおこなったが、それについて委員の意見を 8 月にメールで集約し、2021 年度第 4 回定例理事会（9 月 11 日開催）に提出した。

会計責任者が立案した 2022 年度予算案は、2021 年度決算見込みを確認の上で、2022 年 2 月に協議して調整し、会長および常務理事に提出した。

(2)奨学金委員会

委員長：小宅泰郎 副委員長：柳澤理子

委員：澤田和美、細谷たき子、宮崎雅

石金祐実（事務局）、滝澤さおり（事務局）、竹内里佳（事務局）

1) 2021 年度奨学生選考

委員会での協議の結果、申請のあった5カ国72名のうち、22名を採用した。採用結果について理事会に答申し、全員承認された。

対象国	2021 年度	
	申請者	支給決定者
インドネシア	16 名	2 名
ネパール	13 名	8 名
バングラデシュ	2 名	2 名
ウガンダ	27 名	3 名
タンザニア	14 名	7 名
合 計	72 名	22 名

2) その他の協議

2021 年度は新型コロナウイルス感染防止のため、現地に出張してのモニタリングの実施は見送ったが、ネパールの2団体とオンラインモニタリング実施を試みた。インターネット環境が不安定ながらも、コンピューターのモニター上での面談を通して近況を聞くことができたことは大きな前進である。

また、対象国の協力団体からの現状の聞き取り、奨学生の支援状況、奨学金事業国別方針を踏まえ、2022 年度の奨学金事業の協力団体について検討し、理事会で承認された。

(3)地区ボランティア活動委員会

委員長：久保礼子 副委員長：東岡牧

委員：川北かおり、川島泉、宮川眞一

石金祐実（事務局）

JOCS のボランティア活動について実証的に検討するために、2020 年度に新設された委員会である。2021 年度は、7 回の委員会に加え、11 月 6 日（土）に地区 JOCS 全体オンラインミーティングを開催し、25 名の参加があった。各地区でのボランティア活動の事例、課題や改善案を共有した。コロナ禍においても、工夫しながら使用済み切手収集活動やオンラインでのミーティングが継続されていることが確認された。

[5 - 4] 事務局

2021 年度は東京事務局は 11 名、関西事務局は 1 名の職員体制であった。テレワークと時差出勤により、通勤による感染の機会を減らした。2021 年度も東京事務局、関西事務局とも、新型コロナウイルス感染防止のため、使用済み切手運動に関する業務、事務局の業務などにおいてボランティアの事務局での活動を休止した。

事務局長・海外事業部長・マーケティング部長 森田隆

事務局次長・管理部長 名取智子

東京事務局 浅見有希子（6 月～）、飯田多香子、石金祐実、
久保彩奈、小池宏美、高橋淳子、滝澤さおり、
竹内里佳（8 月～産休・育休）
森田真実子（5 月～産休・育休）

関西事務局 江川由美

6. 社員会員・サポート会員の現状報告

2022 年 3 月 31 日現在

社員会員	288 名
サポート会員	3,099 名
合 計	3,387 名

2021 年度中の社員会員、サポート会員の異動

1. 社員会員

(1) 新たに社員会員となられた方	4 名
(2) サポート会員から社員会員となられた方	2 名
(3) 社員会員を辞し、サポート会員となられた方	6 名
(4) 退会された方	22 名

2. サポート会員

(1) 新たに入会された方	111 名
(2) 退会された方	234 名

7. 2021 年度の主な動き

2021 年	4 月	5 日	地区ボランティア活動委員会
		9 日	江川由美氏入局
		24 日	定例理事会
		28 日	久保彩奈氏入局
	5 月	20 日	電子メールによる臨時理事会（決議の省略）
	6 月	3 日	財務委員会
		4 日	浅見有希子氏入局
		12 日	定例理事会
		12 日	第 60 回定時社員総会開催（東京事務局）
		21 日	地区ボランティア活動委員会
	7 月	21 日	雨宮春子ワーカー 再赴任
		31 日	定例理事会
	8 月	7 日	奨学金委員会
		16 日	地区ボランティア活動委員会
		31 日	財務委員会
	9 月	11 日	定例理事会
	10 月	4 日	地区ボランティア活動委員会
		18 日	地区ボランティア活動委員会
		27 日	財務委員会
	11 月	6 日	地区 JOCS 全体オンラインミーティング
		13 日	定例理事会
	12 月	6 日	地区ボランティア活動委員会
		30 日	岩本直美ワーカー 帰国
2022 年	1 月	8 日	奨学金委員会
		22 日	定例理事会
	2 月	14 日	地区ボランティア活動委員会
		15 日	財務委員会
	3 月	19 日	定例理事会
		28 日	岩本直美短期ワーカー 赴任
		31 日	久保彩奈事務局員退職